

グタイピナコテカ前に集まった具体美術協会会員たち 1964年12月3日  
Photo © The former members of the Gutai Art Association



# オオサカがとん がっくした時代

—戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—

2013年4月27日(土)—7月6日(土)

午前10時30分～午後5時 日曜・祝日休館、ただし  
4月28日(日)、5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)  
は開館、4月29日(月・祝)、5月6日(月・振替休)休館

主催：大阪大学総合学術博物館／共催：豊中市、大阪大学大学院文学  
研究科、大阪大学大学院工学研究科／協力：大阪大学 21世紀懐徳堂

**入場無料** ミュージアム・レクチャー：5月4日、13日、25日／「具体」関連企画トーク、  
ワークショップ：6月1日、8日、22日／豊中市との共催企画 ワークショップ：  
5月11日、6月15日 ＊いずれも午後2時～、ワークショップのみ事前申込必要

池田遊子個人展（大阪市立美術館）  
左端が池田遊子 1951年9月



新歌舞伎座（村野藤吾設計、1958年）  
正面の一部



## 大阪大学総合学術 博物館待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

tel. 06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 ＊公共交通機関をご利用ください。

錦橋から望む旧朝日ビル（右手は旧フェスティバルホール、  
壁面：建皇覚造《牧神、音楽を楽しむの図》1958年）

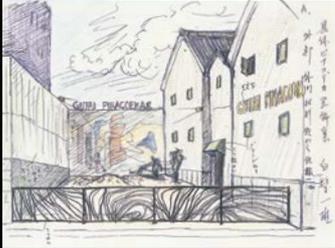


戦後復興から高度成長期を迎え、大阪万博開催にいたる 1950 年代から 60 年代は、大阪がヴァイタリティに富んでいた時代でした。美術でも多彩な実験的活動が試みられ、従来の形式に収まらない表現や視点を提示しようとした様々なグループが生まれました。この時代の大阪のアートシーンを再検証することは、大きく変貌しつつある現代大阪の文化芸術の将来像を考えるうえでも重要といえるでしょう。

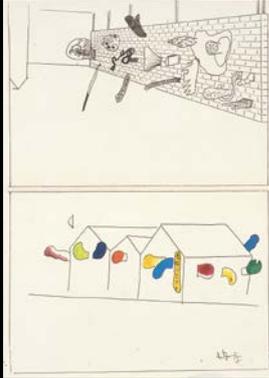
なかでも吉原治良（1905～1972 年）をリーダーとして結成された具体美術協会（具体、1954～1972 年）は、メンバーが次々と前例のない作品を発表し、海外の作家や批評家、コレクターと積極的な交流を深め

ました。1962 年 9 月には、大阪市北区宗是町 33（現在の大阪市北区中之島 3 丁目）にあった吉原所有の土蔵を改装し、具体の作品を常設展示できる施設「グタイピナコテカ」を開きます。

本展では、パンリアル美術協会、デモクラート美術家協会、生活美術連盟など、大阪ゆかりの美術グループを概観しながら、大阪大学発祥の地・中之島にかつて存在した「グタイピナコテカ」の活動に焦点を当てます。それと共に、デザイン、音楽、建築といった他の分野の動きや、都市とアートの関わりにも目を向け、1950～60 年代に大阪で繰り広げられた先進的な動向を改めて振り返ります。



白髪一雄  
「グタイピナコテカ外装アイデアスケッチ」  
1962 年頃



嶋本昭三  
「グタイピナコテカ(外壁)アイデアスケッチ」  
1962 年頃



田中敦子個展  
(グタイピナコテカ・大阪、1963 年 2 月)  
パンフレット



三上誠 《モニュマンと花》 1957 年



辻晋堂《猫の頭》1956 年

# 大阪大学総合学術博物館 第16回企画展

## オオサカがとんがっていた時代

### —戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—

ミュージアム・レクチャー 各日午後 2 時～3 時 30 分

- \* 3 階セミナー室、定員 60 名、聴講無料、事前申込み不要、当日先着順、30 分前より開場
- [第 49 回] 5 月 4 日（土・祝）  
「作り手の論理 聴き手の楽しみ—昭和 30 年代の大阪における芸術音楽について」  
上野正章（大阪大学大学院文学研究科招へい研究員）
- [第 50 回] 5 月 18 日（土）「デザインと前衛芸術、その大阪での融合」  
竹内幸絵（大阪市立大学非常勤講師 / サントリーホールディングス）
- [第 51 回] 5 月 25 日（土）「移りゆく街に埋もれるアヴァンギャルドな表現力」  
小浦久子（大阪大学大学院工学研究科准教授）

#### 「具体」関連企画

\* トークは 3 階セミナー室、定員 60 名、聴講無料、事前申込み不要、当日先着順、30 分前より開場

[トーク A] 6 月 1 日（土）午後 2 時～3 時 30 分

実験としての美術館 グタイピナコテカ 前川強（作家）× 松谷武判（作家）  
グタイピナコテカが具体にとってどのような意味を持っていたのか、その設立以前から具体美術展に出品し始め、その活動の展開を担ってきた元会員の方々と共に顧みます。

[ワークショップ A] 6 月 8 日（土）午後 2 時～4 時（要申込）

部分と全体 堀尾貞治（作家・元具体会員）

ばらばらなものが一つにまとまったとき、思いがけない形と色が現れます。その楽しさと、視点を少し変えるだけで、同じものでも全く違うように見える驚きを体験します。

場所：3 階セミナー室 対象：中学生以上 定員：20 名 参加費：無料

申込期間：5 月 1 日（水）～5 月 10 日（金）

[トーク B] 6 月 22 日（土）午後 2 時～3 時 30 分

グッゲンハイム美術館での Gutai

平井章一（京都国立近代美術館情報資料室長・主任研究員）× 加藤瑞穂（当館招へい准教授）

今春開かれた北米で初となる「具体」の大規模な展覧会「具体：素晴らしい遊び場所」について、その開催に協力した立場から、報告を交えつつ同展を見直します。

#### 豊中市との共催企画

[ワークショップ B-1] 5 月 11 日（土）午後 2 時～4 時（要申込）

\* 会場の都合で 5 月 11 日に急きょ開催できなくなった場合、5 月 18 日（土）に実施

〈豊中〉再発見 森口ゆたか（造形作家）

テレドスコープ（ビー玉万華鏡）を組み立てていろいろな場所をながめ、ふだんとは全く違う風景を発見します。/ 場所：カトリック豊中教会（豊中市本町 6-1-6）/ 対象：小学生（必ず保護者 1 人が同伴してください）/ 定員：10 名 / 参加費：無料 / 申込期間：4 月 2 日（火）～4 月 11 日（木）

[ワークショップ B-2] 6 月 15 日（土）午後 2 時～4 時（要申込）

つくって あそんで かんじる ダンボールトンネル迷路

大野良平（美術家）

ギャラリー内にダンボールを連結させ、トンネル迷路をつくります。/ 場所：豊中市立市民ギャラリー（阪急宝塚線・豊中駅南側高架下 1 階）/ 対象：小学生（保護者同伴可）/ 定員：30 名 / 参加費：無料 / 申込期間：5 月 13 日（月）～5 月 23 日（木）

【ワークショップ A、B の申込方法】ワークショップ名、住所、氏名（同伴する保護者の氏名も含む）、電話番号、ワークショップ B の場合は小学校名、学年を記入し、下記宛にご応募ください。往復はがき（返信はがきの表に住所、氏名を明記）、メール、豊中市役所文化芸術室（平日 9:00～17:15）にて受付いたします。電話、FAX での受付はいたしません。応募者多数の場合は抽選、当否の結果は別途お知らせいたします。  
〒561-8501（住所不要）文化芸術室 ワークショップ担当  
E-mail: bunka@city.toyonaka.osaka.jp 【お問い合わせ】文化芸術室 tel. 06-6858-2503



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館  
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-20 tel. 06-6850-6284  
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急宝塚線「石橋駅」  
下車 徒歩 10 分  
\* 公共交通機関をご利用ください。

